

エリート日本語学校

総合所見（案）〔日本語教育機関教育活動評価委員会〕

#### 【達成状況】

1993年より日本語教育を開始し、「夢・飛躍・自己実現」を校訓として掲げ、日本語教育のみならず、異文化を理解し、人間味のある人材を育成して行こうと努力している。収容定員1,000名のところ、2023年4月現在、中国561名、モンゴル67名、ネパール6名、ベトナム4名、バングラデシュ3名、その他5名の計646名が在籍している。

HPは学校紹介・カリキュラムなどの基本的学校情報が適切に記載されている。活発な学校行事の様子も豊富な写真により分かりやすい。進路指導の特徴や対策クラス、進学実績や学生の声なども丁寧に記載されており、適切な情報提供と言える。印刷冊子も図版や写真を使い、学校の情報を的確に伝えている。

進学指導に関しては、進学課が設置され進学専任の教員が配置されている。進学指導関連の業務分掌も明確にされている。各学生に進路担当をつけ、面談や助言を行い、「進学状況確認リスト」を作成し、定期的に担任教員に配布し、情報の共有を図っている。LINEのオープンチャットを使用し、必要な情報や連絡に学生がアクセスしやすい工夫もされており、進路相談、面接練習、書類添削などもオンラインで予約ができるシステムも作られている。進学に関する情報取得にも注力し、進学課が常に目標を立て改善努力を怠らず、進学指導に携わっていることが分かる。その結果、高い進学実績を維持していることを評価したい。

入学時オリエンテーション時にはPPTにより成績評価や進級基準、学校生活上のルール、授業に関するルールなどの必要な情報がもれなく提供されている。危機対応に関してもマニュアルが整備されており、不法滞在者や資格外活動違反者を出さないための取組として、入学時のほか、各学期初めのオリエンテーション、クラス内進路指導時、入管法改正時などで指導してきた結果、出入国在留管理庁から適正校（クラスI）として選定されている。

教員の職務分掌も整えられ、全体像も分かりやすくなっている。就業マニュアルには就業上の規則等のほか、成績管理、進級基準、会話テスト、作文テストなどの評価ポイントなどが丁寧に記載されている。

教育施設では、令和4年1月、本校が新宿駅近辺にある都所有の大型公共施設に移転し恵まれた教育環境となったほか、令和5年5月からは電子黒板を33台購入し各教室に配備したことは、学習環境の改善に積極的に取り組んでいることとして高く評価したい。

#### 【課題・改善要望等】

授業記録は、現在、手書きで記録されており、LINE等で教員グループに送付し共有しているとのことだが、授業記録簿に授業の振り返りや具体的な授業手順とその結果や気づきが記述され集積されると授業改善や教材開発についての貴重な情報源となると考える。記録簿の記述法を検討し、電子化も視野に入れ整備する方向で検討してもらいたい。

カリキュラムに関し、JLPTとCEFR、EJUのレベルとの対照表が作成されているが、学生の熟達度を文化庁の日本語教育参照枠に位置付けて行うことが望ましい。

教員評価は授業見学という形で、必要と思われる教員に対して行われているが、全教員に対する評価は行われていない。まずは、自己評価、相互評価という形で評価に取り組んでみることを勧めたい。学生からのアンケートは各学期ごとに実施されているので、学生からの評価も生かす形で、この学校に必要な教員はどのような能力や資質を持つ教員なのかということから、評価項目、評価基準を考えていくことを提案したい。